

DX 青山高原ウインドファームの取り組み

当社では、DX戦略の中核として、データとデジタル技術を活用した業務変革に継続的に取り組んでいます。

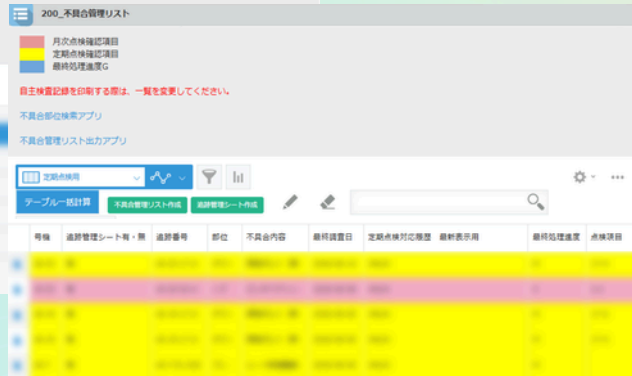
現場業務の見直し・標準化・データ活用を通じて、設備運用の高度化と生産性向上を実現しています。

■DX戦略に基づく当社のデータ活用事例について

当社では、風力発電設備の点検業務において、モバイル端末による点検記録アプリの活用と保守データの一元管理システムを構築し、業務プロセスの改善を実施しました。本取り組みにより、次のような効果を実現しています。



点検記録アプリ



不具合管理アプリ



保守データ一元管理システム

1. 点検の効率化

- 点検記録アプリ、不具合管理アプリおよび保守データ一元管理システムを自社開発しました。
- 点検記録アプリおよび不具合管理アプリを活用し、紙資料の廃止により、点検準備の省力化を実現しました。
- 作業員が、点検記録を一元管理システムへ現場で直接登録することにより、点検記録作成時間の削減を実現しました。

2. 対応の最適化

- 一元管理システムにより、詳細情報をリアルタイムで共有可能な仕組みを構築したことによる、作業員と管理者間の認識齟齬の解消および適宜・適切な対応方法の検討が可能な体制を構築しました。
- 軽微な不具合への対応を標準化することにより、熟練者の経験に頼らず、また作業員毎の判断にブレの生じない最適な対応体制を確立しました。

3. 保守計画の高度化

- 多種多様な軽微不具合の状況に応じて、定量的かつ詳細に記録可能な仕組みを点検記録アプリに導入したことによる、詳細かつ統一された保守データの収集を実現しました。
- 充実した保守データを基に、より高度な保守計画を立案しています。

従来の点検業務

- ①紙資料に点検内容を記入
- ②不具合を電話で報告 ※管理者と対応を相談
- ③紙資料に不具合状況を記入 ※軽微な不具合は経過観察処置を実施（作業班で処置に差がある）
- ④事務所で点検記録を作成し印刷
- ⑤点検記録の確認と不具合対応検討（月1回実施）



現在の点検業務

- ①点検記録アプリで点検内容を入力 ※詳細情報を標準化された表現で記録 ※リアルタイムで管理システムに記録
- ②不具合を管理者にチャットで報告 ※保守データ一元管理システムを管理者と共に確認し対応を検討
- ③不具合管理アプリに対応状況を入力 ※これまでの実績に基づいた最適な経過観察処置方法が参照可能（対応内容の標準化）
- ④必要の都度 不具合対応検討 ※保守データ一元管理システムを使用することにより報告書類の提出を廃止

